

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)末広町4丁目プロジェクト新築	階数	地上10F
建設地	大阪府八尾市末広町	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	117 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2024年6月18日
敷地面積	734 m ²	作成者	熊澤茂樹
建築面積	348 m ²	確認日	2024年6月18日
延床面積	2,522 m ²	確認者	熊澤茂樹



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	特になし	その他 特になし
Q1 室内環境	建物全体的にF☆☆☆☆を採用し空気質環境の向上を配慮する。 外部建具についてはT-1を計画し遮音対策にも取り組む	Q2 サービス性能 特になし
LR1 エネルギー	LED照明を使用し考慮する	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR2 資源・マテリアル	特になし	LR3 敷地外環境 CO ₂ の排出の抑制に努める

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)末広町4丁目プロジェクト新築工事					
建設地		大阪府 八尾市末広町					
用途/区分		集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	断熱性能					3	
		<small>建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル</small>	<small>住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分</small>			3	
④	エネルギー消費性能					3	
		<small>建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル</small>	<small>住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分</small>			1	
		<small>非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分</small>				評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】							
項目		評価内容				スコア	評価
① CO2削減		CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮				3.0	3
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出				2.0	2
敷地内温熱環境の向上		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	
温熱環境悪化の改善		CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	
③ 断熱性能		CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	3
④ エネルギー消費性能		CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化				3.3	3
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用				2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	-
その他							
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項		
特に配慮した事項							